

残り3戦、完全燃焼誓う

あす、来月6、7日JCL



自転車ロードのプロチーム「スパークルおおいた」は31日と11月6、7の両日、栃木県であるジャパンサイクルリーグ（JCL）残り3戦に臨む。チーム発足初年度は困難に見舞われながらも、懸命にペダルをこぎ続けた。選手たちは有終の美を飾ろうと闘志を燃やしている。



競技歴3年目ながら存在感を発揮する宮崎泰史（大分市顕徳町）

今季から始まったJCLを消化した。最後の3戦は、日田市でのロードは▽11月6日▽湧水の郷しおレースなどこれまで7戦ヤクリテリウム（84km）

▽11月6日▽大田原ロー人総合で孫崎大樹が4位ドレース（116・1km）につける。また第4戦の▽同7日▽那須塩原クリテリウム（45km）。JCL全10戦と10月の「OIT」各レースで存在感をTAサイクルフェス」2連戦のポイントを含む王者が決まる。

好調を維持したまま残り3戦を迎える。孫崎は「どこかで1勝したい」と話し、「（チームスロークランの）限界を超える走りを貫き、力を出し切りたい」と完全燃焼を誓った。（江藤伸彰）

チームメイトが高校の時から実績を残す中、大学2年の2019年春に競技を始めた。今季がプロ1年目だがJCL第7戦（9月）で2位に「しっかり準備できた。孫崎大樹選手のアシストとアドバイスにも助けられ、いいレースができた」と先輩に感謝した。

競技歴3年目の大学生

宮崎泰史

イアルのU23で6位に入るなど実力の片りんをのぞかせた。20年のOITAサイクルフェスで黒枝咲哉主将に声を掛けられ、スパークルの一員になった。日本文理大工学部航空宇宙工学科の4年生。練習と卒業論文の準備で忙しい毎日を送る。趣味の温泉で体を癒やす。

熊本県出身の九州男児は「（残り3戦）しっかりアシストして、チームに貢献する」と我慢して足をもがき続ける。